

益田市ひとづくり協働構想

平成 28 年 3 月
益 田 市

はじめに

本市では、人口減少という深刻な課題にいち早く対応し、平成26年2月に「益田市人口拡大計画」を策定しました。さらに、これに新たな視点とプロセスを加え、人口拡大への新たな方向性を示すべく、「益田市人口ビジョン」および「益田市総合戦略」を平成27年10月に策定しました。

「益田市総合戦略」では、基本目標として「定住の基盤となるしごとをつくる」、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「益田に回帰・流入・定着するひとの流れをつくる」、そして「地域にあるものを活かし、安心して暮らせるまちをつくる」の4つを掲げています。

これら基本目標のすべてにおいて、推進施策の担い手や地域を支える人材の育成を具体的施策の一つとして明示するとともに、最終章において「次世代の担い手育成」、「しごとの担い手育成」、「地域の担い手育成」として総括しています。このように、「ひとづくり」は総合戦略を貫く大きなテーマとなっています。

「ひとづくり」は、長期の展望に基づき、体系的・計画的に取り組むことが不可欠です。また、優れた指導者の確保という要件も決して容易なものではありません。このため、行政のみならず、学校、企業、各種団体、有識者など関係する機関や個人が連携し、可能な限り相乗効果を発揮することが求められます。

能力、見識、人格に優れ、様々な分野に貢献し得る人材の育成は、それ自体十分な意義がありますが、地域が結集して有為の人材を生み出すプロセスを構築することができれば、これは地域ブランドの確立にほかならず、他の地域との決定的な差別化要素となり得るといえます。

「ひとづくり」によって今後の益田市の活路を開くという信念のもと、「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、ここに「益田市ひとづくり協働構想」を策定します。

平成28年3月

益田市長 山本浩章

「ひとづくり協働構想」

1. 構想策定の目的

平成27年10月、本市の人口減少問題を克服し持続的な発展を目指すため益田市総合戦略を策定しました。この戦略に於いては、今後5年間に取り組む4つの基本目標を掲げるとともに、その具体的な推進施策をまとめています。この4つの基本目標いずれの分野においても、次のとおり「ひとづくり」を推進する施策に取り組むこととしています。

基本目標1 定住の基盤となるしごとをつくる

推進施策(9)「産業人材の育成と確保」

基本目標2 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

推進施策(5)「子育てや教育を支える人材の育成」

基本目標3 益田に回帰・流入・定着するひとのながれをつくる

推進施策(4)「地域を支え魅力を向上させる人材の育成」

基本目標4 地域にあるものを活かし、安心して暮らせるまちをつくる

推進施策(5)「地域づくり人材の育成」

これは、施策の持続的な取組を可能にすることと、施策効果を着実に発揮していくためには、基本目標の全ての分野で「ひとづくり」が欠かせない要素であるということから設定したものです。

これまで、産業施策としてのキャリア教育や地域振興施策としてのリーダー養成、また社会教育事業としての人材育成を行ってきましたが、これらの取組が体系的に取り組まなければ、総合戦略の施策効果も十分に発揮されないこととなります。

生涯各期において「学び」、「考え」、「経験し」、各自の新たな方向を選択するということは、市民一人一人にとっても地域社会の発展にとっても重要なことです。取組による施策効果を上げるため、市民、地域、企業等の皆様方にご理解とご協力を頂き、行政と協働した取組となるよう施策を実施していきます。

そこで、行政組織の縦割りを排し、ライフステージごとの取組を体系だてた「ひとづくり協働構想」を策定し持続的、体系的な「ひとづくり」を進めます。

2. 目指す人のすがた

今後、少子高齢化が進み、しばらくの間は人口減少が続くと推測されている本市にとっては、今まで以上に市民と行政が連携・協働し「ひと」を育てていくことが重要です。

本市のめざしている「ひと」とは次のとおりです。

- 1) 将来の益田市を支えるため、自らの可能性を広げることのできるひと。
- 2) しごとを継続発展させるひと。しごとを創り出せるひと。
- 3) 地域のひとと協力し、地域を支えるひと。地域の資源を活かせるひと。

このような「ひとづくり」を目指します。

3. 構想実現への基本的な方向

構想の実現を図るため「未来の益田市を支える担い手育成」、「しごとの担い手育成」、「地域づくりの担い手、リーダー育成」を中心的なテーマとして各世代を通して体系的に取り組みます。

■未来の益田市を支える担い手育成

今日までも「ひとづくり」については、社会教育事業や各団体、地域等で様々な取組が行われてきました。今後の取組としては、これらの取組を体系的に進めるとともに、新たな視点として、「子ども達に生きるための材料提供」や「生き方を学ぶための沢山の選択肢」を持ってもらうための場づくりなどを加えて取り組みます。

また、幼児期から青年期までを対象に、各期に応じたキャリア教育や地域のロールモデル（模範、手本）を学ぶとともに、地域づくり活動への参画機会の創出など幅広い取組を行います。

■しごとの担い手育成

キャリア教育を早期（中学生まで対象を拡大）から実施していくことで、それまであまり知らなかった市内の「企業を知る」ことや「しごと」について触れることで、将来地元で頑張りたいとする動機づけになる取組を行います。

また、学生等へのアプローチや既存事業所等の後継者育成、事業継承・発展への取組を支援します。

■地域づくりの担い手、リーダー育成

少子高齢化の進行、若者の減少など地域を取り巻く状況は周辺部を中心に厳しさを増しています。しかし、周辺部でも若者がU Iターンしてきた地域もあり、地域の魅力を高める取組によっては、若者世代の増加や子どもの増加も不可能ではありません。それを実現していくには、そこに地域づくりのリーダーが欠かせません。地域のことを地域で話し合い、地域をつくる取組を展開していくことが大切です。

また、地区振興センター、公民館等での社会教育活動を通して次代を担うリーダーの育成を進めます。また、健康長寿のまちづくりや女性の活躍する社会づくりの推進など、様々な場で地域づくりに関わる担い手やリーダーを育成します。

地域づくりに多様な視点からアプローチするNPO法人の育成を図り、協働してリーダーの育成を進めます。

4. 具体的な取組施策

構想実現への基本的な方向を踏まえ、各世代ごとに以下の施策を取り組めます。

1) 幼少期

幼少期は、知識よりも五感を通じて身の回りで起こる現象や地域における様々な存在を確認することが大切です。地域で遊ぶことや親子で遊ぶことを通して、地域の約束ごとや学びの「気づき」を育てる施策を実施します。

この時期、家庭での過ごし方も大切です。親子読書等の普及を通して親子の触れ合いや感性を高める取組を推進します。

2) 小学生期

小学生期は、地域で暮らし活躍する人との出会いを通じて現在の益田市像を知る活動に取り組みます。出来るだけ多様な人材と出会い、話したり質問したりするコミュニケーションの場を重視します。こうした取

組から、「しごとを学ぶ」機会や地域で活躍されている人の話を聞くなど、益田暮らしの楽しさやふるさと益田の良さ、地元企業を知る機会をつくる施策を実施します。

また、地域の人たちと家庭・学校が一体となって、子どもを育ていく取組を推進していきます。

3) 中学生期

中学生期は多感な時期であり、様々な課題を抱える時期でもあります。大人になる入口に差し掛かっており、周りの大人の関わり方が極めて重要な時期です。そこで、「誰かのために」「地域のために」自分たちができることを考えながら行う行動プログラムを展開していきます。こうした活動を通じて、地域社会を「知識」だけでなく「自分が行動する・活動する場」としてつかみ取っていくことに重点を置き、実際の行動へつなげていきます。

また、他の学校との交流会や先輩との交流など、多様な価値観に触れる機会を創出するとともに、職場体験や市内企業の経営者等の話を聞く機会の創出、地元企業の紹介などを通じてキャリア教育に取り組みます。

4) 高校生期

これまでのプログラムで積み重ねてきた経験と成長を、実践的な社会と結びつけ、自分の進路目標や生き方を考えていく時期です。このため、地域課題解決のための取組や検討会、職業や生き方について多様な価値観に出会える場の設定を行います。

また、職業選択にとって大切な時期にあることから、益田鹿足雇用推進協議会と連携し、高校生を対象とした講演会の開催やインターンシップの実施など、確かな職業選択に向けての取組を実施します。高校生のみならず、保護者を対象とした啓発活動にも取り組むと同時に、市内企業への市内高校生の採用促進をお願いする取組も推進していきます。

5) 大学生、社会人など青年期

この時期は、地域づくりや産業振興を「実践」する時期となります。そうした意味では、この世代の活発な行動が将来の益田をつくっていく土台といえます。大学生に対しての取組としては、大学等へ出かけての企業ガイダンスの実施を取り組みます。若い経営者、新規就職者等に対しては、創業のための支援、新規就職者向けの研修会、若い経営者のための研修支援の実施など、益田の次代を担う担い手育成を実施します。

また、意欲ある経営者支援として、新規分野への進出や事業承継に取り組む事業家支援や育成に取り組みます。

一方、地域コミュニティにとって若者は大切な地域の担い手です。地域の祭りや伝統的な行事を次世代につなぐ大切な担い手です。自らの地域に愛情と大きな誇りを持ち、未来に向けた確たる信念と明るい展望を抱き地域づくりに積極的に関わるため、地域での話し合いへ若者や女性の参加を促進する取組を実施します。また、U I ターン者は新しい文化を持ち込み、地域の新しい文化を築くこともあります。地域の人と協力し、地域資源を活かせる人となり得るものと思います。こうしたU I ターン者の定住促進のためにも地域の「世話役」を育成していきます。

6) 中高年期

中高年期は地域づくりや産業の振興、次世代育成などまちの様々な営みにとってまさに大活躍いただく世代です。これまでのキャリアを活かし「ひとづくり」に積極的に関わって頂くことが大切です。小中高生のロールモデル（模範、手本）として、学校教育やキャリア教育に今まで以上に関わって頂く機会の創出に取り組みます。また、地域づくりに於いては若者や女性の参加を促し、地域の課題を地域で解決に導く地域自治組織の設立に向けた取組において、次代を担うリーダーが育っていくよう助言や協力を積極的に頂く機会をつくっていきます。

また、地域に移住されてくるU I ターン者、特にI ターン者については地域の事情も分からない事が多々ある中で地域に定住していただくためにも、「地域の世話役」としてサポート頂く取組も進めていきます。

農林水産業に於いては担い手の不足が深刻な問題となっています。今ある技術、生産基盤を次代に引き継ぐためにも担い手の育成は急務の課題です。第1次産業への新規参入を促すためU I ターン希望者へも引き続き積極的に紹介をしていきます。また、産地としての生産量を確保していく取組も、後継者育成にとっても重要な課題であることから取組を進めます。

5. 推進体制

1) ひとづくり推進本部

「ひとづくり協働構想」を効果的に進めていくため、庁内に市長を本部長とする「ひとづくり推進本部」を設け、各計画の調整や評価を行いながら「ひとづくり」を推進します。

2) 推進するための組織づくり

ひとづくり協働構想が、「ひと」を基軸として、施策が相互につながり水平展開していくための組織づくりを行います。

各分野の実務者により構成する「ひとづくり推進委員会」を設けます。会議の中で、各施策の情報共有、課題・成果の確認等を行うなど、知識の共有からつながりを持った取組の展開を目指します。市民本位でスピーディな検討や調整を行いながら、「ひとづくり」を推進していきます。政策的な課題については、速やかに「ひとづくり推進本部」に諮り解決を図るとともに、円滑な事業推進を図ります。

3) 市民参加と事業推進

各事業の担当課は、事業の効果的な推進を図るため、関係する市民や団体、学校や企業等と意見交換する場として、3つの部会からなるひとづくり連絡会議を設置し、市民が主体となった取組や仕組みづくりを進めます。取組を通じて得られる市民の意見に基づく振り返りや評価を積み重ね、施策の向上を図ります。

【推進体制のイメージ】

